

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	国語	履修学年	1	教科書(出版社)	精選現代の国語(東京書籍)
科目	現代の国語	必修	必修	副教材等	読解を深める現代文単語 評論・小説 三訂版(桐原書店) 新版 意味から学ぶ 頻出漢字3000(第一学習社) わかる、とける現代文 解法のテクニック1 三訂版(啓隆社)
単位数	2	選択			

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わりようとする態度を養う。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いやりや考えを広げたり深めたりしている。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
1 出会いと発見 【読む】 ・まだ知らない自分に出会う ・僕たちの「センス・オブ・ワンダー」 【話す・聞く】分かりやすい説明をする	・評論の基本的な読み方を学び、筆者の主張と根拠の関係を把握する。 ・自己と他者の関係について多角的に考察し、自分の考えを深める。 ・分かりやすく説明する技術を身に付け、論理的な表現力を養う。	・実社会に必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文、話、文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨や要点を把握している。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、話の構成や展開を工夫している。	・進んで文章の構成や展開を捉え、学習課題に沿って要旨を把握しようとしている。 ・積極的に話の構成や展開を工夫し、分かりやすく説明しようとしている。	4月～5月・中間考查
2 認識を深める 【読む】 ・遊びが生じる場所 ・水の東西 【話す・聞く】発想を広げて課題を見つける	・文章の要旨を的確に捉え、200字程度で要約する力を身に付ける。 ・東西の文化比較を通じて、物事を相対的に捉える視点を養う。 ・課題を発見し、発想を広げて探究する姿勢を育てる。	・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ・比喩、例示などの修辞や、文章の種類に応じた効果的な段落の構造や論の形式などについて理解を深めている。	・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、要旨を把握している。 ・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集・整理している。	・粘り強く文章の要旨を把握し、学習課題に沿って200字程度で要約しようとしている。 ・進んで課題を発見し、発想を広げて探究しようとしている。	5月～7月・期末考查
3 言葉と社会 【読む】 ・言葉は「もの名前」ではない ・まちの豊かさとは何か 【話す・聞く】本を紹介する	・言葉と認識の関係を理解し、言語が思考に与える影響を考察する。 ・社会における言葉の役割を多面的に捉え、批判的に読む力を養う。 ・本の魅力を効果的に伝えるプレゼンテーション技術を身に付ける。	・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。 ・文章の種類に応じた効果的な段落の構造や論の形式などについて理解を深めている。	・文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えている。 ・聞き手の関心や理解を踏まえ、自分の考えが的確に伝わるよう表現を工夫している。	・粘り強く言葉と認識の関係について考察し、批判的に読む姿勢を身に付けようとしている。 ・積極的に本の魅力を伝えるプレゼンテーションに取り組みようとしている。	9月～10月・中間考查
4 共に生きる 【読む】 ・真の自立とは ・自立と市場 【書く】異なる主張を読み比べ意見文を書く	・複数の文章を読み比べ、異なる立場や主張の共通点・相違点を整理する。 ・自立と共生について深く考察し、根拠に基づいた意見文を書く。 ・情報を整理しながら話し合い、合意形成に向けて対話する力を養う。	・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ・文章の種類に応じた効果的な段落の構造や論の形式などについて理解を深めている。	・設定した題材に関する複数の文章を読み比べ、共通点や相違点を整理している。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考え、意見文を書いている。	・進んで複数の文章を読み比べ、異なる立場や主張を整理しようとしている。 ・粘り強く根拠に基づいた意見文を書き、合意形成に向けて対話しようとしている。	10月～12月・期末考查
5 世界を広げる 【読む】 ・「無駄」と進化 ・人工知能はなぜ椅子に座れないのか 【書く】論証してレポートを書く	・科学・哲学・芸術など多様な分野の評論を読み、視野を広げる。 ・根拠を明確にして論証し、レポートを書く力を身に付ける。 ・探究した成果を効果的に発信し、学びを深める態度を養う。	・主張と論拠など情報と情報との関係について理解している。 ・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深めている。	・多様な分野の文章を読み、内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握している。 ・根拠の適切さや論理の展開などについて吟味した上で、論証してレポートを書いている。	・粘り強く多様な分野の評論を読み、視野を広げようとしている。 ・積極的に探究した成果を発信し、学びを深める態度を養おうとしている。	1月～3月・学年末考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	国語	履修学年	1	教科書(出版社)	精選言語文化 (東京書籍)
科目	言語文化	必修	必修	副教材等	体系古典文法 十訂版 (数研出版)、体系古典文法学習ノート (数研出版)、体系漢文 三訂版 (数研出版)、体系漢文学習ノート 改訂版 (数研出版)、力をつける古典 ステップ1 (数研出版)、新国語便覧 改訂版 (大修館書店)、四訂版 key&point古文単語330 (いづな書店)
単位数	3	選択			

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・調査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
<p>【古文入門・説話】</p> <p>宇治拾遺物語</p> <p>・鬼のそら寝</p> <p>・絵仏師良秀</p> <p>【文法】用言の活用 (動詞・形容詞・形容動詞)</p> <p>【演習】古文読解の基礎</p>	<p>古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまり、古文特有の表現などについての基礎を理解する。</p> <p>【文法事項】</p> <p>・用言 (動詞・形容詞・形容動詞) の活用を体系的に習得する。</p> <p>・古文読解に必要な基礎力を養成する。</p>	<p>古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な語彙や文語の文法 (用言の活用; 動詞・形容詞・形容動詞)、古文特有の表現などの基礎的な事項について理解している。</p>	<p>「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を的確に捉えている。</p> <p>「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。</p>	<p>積極的に参加し、学習課題に沿ったもの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を解釈しようとしている。</p>	4月～5月・中間調査
<p>【歌物語】伊勢物語</p> <p>・芥川</p> <p>・東下り</p> <p>・筒井筒</p> <p>【訓読の基本】</p> <p>・訓読</p> <p>・再読文字</p> <p>【故事成語】</p> <p>・矛盾 (純非子)</p> <p>・借虎威 (戦国策)</p> <p>【文法】助動詞 (1) (る・らる・す・さす・しむ)</p>	<p>古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な文語のきまり、古文特有の表現などについて理解する。作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。</p> <p>【文法事項】</p> <p>・助動詞 (1) : 受身・尊敬・自発・可能 (る・らる)、使役・尊敬 (す・さす・しむ) を習得する。</p>	<p>古典の世界に親しむために、漢文を読むために必要な用字や訓読のきまり (書き下し文・句法)、漢文特有の表現や基本知識などについて理解している。</p> <p>助動詞 (る・らる・す・さす・しむ) の意味・接続・活用を理解し、正確に識別できる。</p>	<p>「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p> <p>「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。</p>	<p>積極的に参加し、学習課題に沿ったもの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を解釈しようとする。</p>	5月～7月・期末調査
<p>【近代小説】</p> <p>霧生門 (芥川龍之介)</p> <p>【随筆】</p> <p>・徒然草</p> <p>・神無月のころ</p> <p>・丹波に出雲といふ所あり</p> <p>・ある人、弓射ることを習ふに</p> <p>【史伝】</p> <p>・管仲之交 (十八史略)</p> <p>・臥薪嘗胆 (十八史略)</p> <p>【文法】助動詞 (2) (き・けり・つ・ぬ・たり・り)</p>	<p>作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を理解し解釈することができる。</p> <p>ことばがもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させる。</p> <p>古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語や漢文のきまり、古典特有の表現などについて理解する。</p> <p>【文法事項】</p> <p>・助動詞 (2) : 過去・完了 (き・けり・つ・ぬ・たり・り) を習得する。</p>	<p>文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。</p> <p>古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な語彙や文語の文法 (用言・助動詞) や和歌、古文特有の表現などについて理解している。</p> <p>助動詞 (き・けり・つ・ぬ・たり・り) の意味・接続・活用を理解し、正確に識別できる。</p>	<p>「読むこと」において、作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉えている。</p> <p>「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。</p> <p>「読むこと」において、文章の種類を踏まえ、内容や文章の構成、展開などについて叙述を基に的確に捉え、作品や文章に表れているもの見方、感じ方、考え方を捉えている。</p> <p>「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。</p>	<p>積極的に自らの作品世界を構築し、学習課題に沿って自分の考えや思いを文章にしようとしている。</p> <p>粘り強く本文の内容を読み解き、今までの学習を生かして構成を整理し、学習課題に沿ったもの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を解釈しようとしている。</p>	9月～10月・中間調査
<p>【日記文学】土佐日記</p> <p>・馬のはなむけ</p> <p>・雉</p> <p>【和歌】</p> <p>万葉集・古今和歌集・新古今和歌集</p> <p>※修辭法: 掛詞・縁語・序詞・枕詞</p> <p>【絶句と律詩】</p> <p>・静夜思 (李白)</p> <p>・送元二使安西 (王维)</p> <p>・春望 (杜甫)</p> <p>【文法】助動詞 (3) (む・むず・べし・まじらむ・けむ)</p>	<p>古典の世界に親しむために、作者が文章を執筆した意図について、歴史的背景を踏まえて考察し、作品や文章の文化的背景を理解する。</p> <p>作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。</p> <p>【文法事項】</p> <p>・助動詞 (3) : 推量・意志・勧誘 (む・むず)、推量・当然・命令 (べし・まじ)、現在推量・原因推量 (らむ・けむ) を習得する。</p> <p>・和歌の修辭法 (掛詞・縁語・序詞・枕詞) を理解する。</p>	<p>古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な語彙や文語の文法 (用言・助動詞) や和歌の修辭法 (掛詞・縁語・序詞・枕詞)、古文特有の表現などについて理解している。</p> <p>古典の世界に親しむために、漢文を読むために必要な用字や訓読のきまり (書き下し文・句法)、漢文特有の表現や基本知識などについて理解している。</p> <p>助動詞 (む・むず・べし・まじらむ・けむ) の意味・接続・活用を理解し、正確に識別できる。</p>	<p>「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。</p> <p>「書くこと」において、内容を理解して解釈を深め、表現の仕方を工夫している。</p> <p>「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p> <p>「書くこと」において、内容を理解して深く解釈し、表現の仕方を工夫している。</p>	<p>古典常識について積極的に調べ、学習課題に沿って理解を深め、正確に本文全体を解釈しようとする。</p> <p>進んで作品内容を理解し、学習課題に沿ったもの見方、感じ方、考え方を深め、本文全体を解釈しようとする。</p>	10月～12月・期末調査
<p>【詩歌】</p> <p>・I was born (吉野弘)</p> <p>【随筆】</p> <p>枕草子</p> <p>・五月ばかりなどに山里に歩く</p> <p>【文】</p> <p>・雑説</p> <p>【思想】</p> <p>・論語</p> <p>・孟子</p> <p>【文法】助動詞 (4) ・助詞・敬語</p> <p>【総合演習】入試問題演習</p>	<p>作品の解釈を踏まえ、自分のもの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化について自分の考えをもつことができる。</p> <p>古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的、文化的背景などを理解するとともに、他の作品との関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。</p> <p>【文法事項】</p> <p>・助動詞 (4) : その他の助動詞を総復習する。</p> <p>・助詞: 格助詞・接続助詞・副助詞・終助詞を習得する。</p> <p>・敬語: 尊敬語・謙讓語・丁寧語を体系的に理解する。</p>	<p>言語文化に特徴的な句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通じて、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>古典の世界に親しむために、古文を読むために必要な語彙や文語の文法 (助動詞・助詞・敬語)、古文特有の表現や文章中に取り入れられた漢詩の摂取態度などについて理解している。</p> <p>敬語 (尊敬語・謙讓語・丁寧語) を体系的に理解し、敬意の方向を正確に判断できる。</p> <p>入試問題に対応できる読解力・文法力を身につけている。</p>	<p>「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のもの見方、感じ方、考え方を深め、言語文化について自分の考えをもつことができる。</p> <p>「書くこと」において、内容を理解して解釈し、表現の仕方を工夫している。</p> <p>「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。</p> <p>「書くこと」において、内容を理解して深く解釈し、表現の仕方を工夫している。</p>	<p>粘り強く本文の内容を読み解き、今までの学習を生かして、学習課題に沿ったもの見方、感じ方、考え方を深め、本文を解釈しようとする。</p>	1月～3月・学年末調査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	地理歴史	履修学年	1	教科書(出版社)	新地理総合(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院)
科目	地理総合	必修・選択	必修	副教材等	新詳地理資料COMPLETE2026(帝国書院)
単位数	2				

1 学習の到達目標

<p>1 基本的な地理的知識・技能を定着する。</p> <p>2 習得した知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力を身に付ける。</p> <p>3 主体的・積極的に学習し、地表面で展開される諸問題に対して主体的に考察する姿勢を身に付ける。</p>
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
知識の習得や知識の理解、資料を正しく利用できる力を身に付けているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決してゆくための思考力・判断力・表現力などを身に付けているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身に付ける過程において主体的に学習に取り組んでいるか。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
地図と地理情報システム	地球上の位置と時差について正しく理解する。 主題図・一般図・統計地図などの地図・地球儀の役割と種類、利用法について理解する。 地理情報システムはどのように活用されているかを考える。	日常生活の中で見られる様々な地図の読図を基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解している。	地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方について多面的に考察し表現することができる。	地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。	4月～5月・1学期中間考査
自然環境と防災	大地形や小地形などの世界の地形と、それが形成されるメカニズムと地域的特色を理解する。 そこで展開される人間の生活を理解し、自然災害への関心を高め、科学的に対応できる力を育成する。	生活の舞台となる陸地における地形とを形成する要因について理解している。 地形と災害の関係について理解している。	生活の舞台となる陸地における地形を構成する要因と自然災害との関わりについて多面的、多角的に考察し、表現することができる。	生活の舞台となる陸地における地形を構成する要因と自然災害との関わりについて多面的、多角的に考察し、災害を減少させてゆく手立てについて主体的に取り組んでいる。	5月～7月・1学期期末考査
自然環境と防災	気候帯・気候区別に世界の気候の地域的特色が現れるメカニズムを理解する。 そこで展開される人間の生活を理解し、自然災害への関心を高め、科学的に対応できる力を育成する。	生活の舞台となる地表面における気候の地域的特色が現れる要因について理解している。 気候と災害の関係について理解している。	生活の舞台となる地表面における気候の地域的特色が現れる要因について多面的に考察し、災害との関わりについて多面的に表現することができる。	生活の舞台となる地表面における気候の地域的特色が現れる要因について多面的に考察し、災害を減少させてゆく手立てについて主体的に取り組んでいる。	7月～10月・2学期中間考査
多様な生活文化	世界の言語の違いが人々の生活にどのような影響を与えているかを知る。 宗教の分布と人間生活についての影響について、その歴史的背景について理解する。	世界の言語の違い、宗教の分布と人間生活についての影響について理解している。	世界の言語の違い、宗教の分布と人間生活についての影響について理解し、多面的に考察し表現することができる。	世界の言語の違い、宗教の分布と人間生活についての影響について理解し、多面的に考察し表現することができ、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。	10月～12月・2学期期末考査
世界の産業と人々の生活 地球的課題と国際協力	世界の農業地域の形成と地域的な特色についてその歴史的展開について理解する。 世界の工業地域の形成と地域的な特色についてその歴史的な展開について理解する。 地球規模の環境問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題についての地域的特色を理解する。 そうした問題が生じる要因を正しく理解させる。	世界の農業地域の形成と地域的な特色、工業地域の形成と地域的な特色について理解している。 地球規模の環境問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題についての地域的特色を理解し、そうした問題が生じる要因を正しく理解している。	世界の農業地域の形成と地域的な特色、工業地域の形成と地域的な特色について理解し、多面的に考察し表現することができる。 地球規模の環境問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題についての地域的特色を理解し、そうした問題が生じる要因を正しく理解し、多面的に考察し表現することができる。	世界の農業地域の形成と地域的な特色、工業地域の形成と地域的な特色について理解し、多面的に考察し表現することができ、よりよい産業社会の在り方を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。 地球規模の環境問題、人口問題、食料問題、都市・居住問題についての地域的特色を理解し、そうした問題が生じる要因を正しく理解し、多面的に考察しよりよい人間社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追及、解決しようとしている。	12月～3月・学年末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	数学	履修学年	1	教科書(出版社)	改訂版 高等学校 数学 I (数研出版)
科目	数学 I	必修・選択	必修	副教材等	改訂版 高等学校 数学 I 入門ノート (数研出版) 改訂版 教科書傍用 4プロセス 数学 I +A (数研出版) 改訂版 チャート式 基礎からの数学 I +A (数研出版) 改訂版 短期完成 データの分析ノート(数研出版)
単位数	3				

1 学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考察する資質・能力を育成することを旨とする。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
数と式、図形と計量、2次関数およびデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数字化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理する技能を身に付けるようにする。	数や式を多面的にみたり適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係について式やグラフを相互に関連付けて考察する力、データを分析し問題を解決する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論理に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価、改良したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期 考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
第1章 数と式 第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 多項式の乗法 3 因数分解 第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算 第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式	式を、目的に応じて整理したり、1つの文字に置き換えたりして、多面的に捉えたり変形したりする。 実数を体系化して理解を深めるとともに、無理数などの四則演算ができるようにする。 不等式の解の意味や性質について理解するとともに、1次不等式を解くことで、具体的な事象の問題解決に役立てる。	・単項式・多項式や次数、降べきの順などの用語を理解し、式を整理したり計算したりすることができる。 ・因数分解を行うのに、公式を利用したり、文字の置き換えを利用したりすることができる。 ・絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。	・式を1つの文字に置き換えて、式の計算を簡略化することができる。 ・複雑な式についても、項を組み合わせて、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。 ・絶対値記号を含む複雑な式について、適切に絶対値記号をはずす処理ができる。	・単項式、多項式とその整理の仕方に関心をもち、考察しようとする。 ・式の変形、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとする。 ・絶対値記号を含むやや複雑な方程式や不等式を解くことに取り組もうとする。	4月 5月 1学期 中間考査
第2章 集合と命題 2 命題と条件 3 命題と証明 (1 集合は、数学Aで扱う)	集合と命題に関する基本的な概念を正しく理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	・命題や条件に関する基本的な意味を理解し、命題の真偽を決定することができる。 ・対偶による証明法や背理法の仕組みを理解している。	・命題の真偽を、集合の包含関係に結び付けて考察することができる。 ・命題の条件や結論に着目し、証明法を適切に判断して命題を証明することができる。	・命題と集合との関係について積極的に理解しようとする。 ・直接証明法では難しい命題も、対偶による証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味や関心をもち、実際に証明しようとする。	6月 1学期 期末考査
第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ 第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定 第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式	2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解し、グラフをかかなくして多面的に考察する。また、最大値や最小値を求めることができるようにする。 2次方程式と2次不等式の解と2次関数のグラフの関係について理解し、グラフを用いて2次不等式の解を求められるようにすることで、具体的な事象の問題解決に役立てる。	・ $y=f(x)$ の表記や概念を理解している。 ・ $ax^2+bx+c=a(x-p)^2+q$ に変形し、2次関数のグラフの軸と頂点を求め、グラフをかきことができる。 ・2次関数の最大値・最小値を求めることができる。 ・与えられた条件から2次関数を求めることができる。 ・2次方程式、2次不等式を解くことができる。 ・2次方程式において判別式の符号と実数解の個数の関係を理解している。	・2次関数の特徴について、表、式、グラフ、平行移動等に関連付けて、多面的に考察することができる。 ・具体的な事象や、定義域が変化するとき、2次関数のグラフが動くときの最大値、最小値について考察することができる。 ・2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を判別式の符号から考察することができる。 ・2次関数の値の符号と2次不等式の解を相互に関連させて考察することができる。	・2次関数の頂点や軸の式、平行移動や対称移動の一般公式を考察しようとする。 ・2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。 ・身近な問題を2次不等式で解決しようとする。	6月 9月 1学期 期末 2学期 中間考査
第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係 3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用 4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理と余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	三角比やその基本的な性質及び三角比の相互関係について理解し、日常的事象を数学的に捉え、三角比を活用して問題解決をする力を培う。 図形の構成要素(辺や角)の関係を、三角比を用いて表現し、定理や公式を活用して問題解決に役立てる。	・三角比の定義を理解し、三角比の値や辺の長さを求めることができる。 ・三角比の相互関係の公式や、角度の変換公式を用いて、三角比の値を求めることができる。 ・正弦定理、余弦定理、面積を求める公式を理解し、角の大きさ、辺の長さや面積を求めることができる。また、空間図形の計量に応用することができる。	・具体的な事象を三角比の問題として捉えることができる。 ・鋭角の三角比を、鈍角に拡張して考察することができる。 ・三角形の辺の長さや角の大きさと正弦定理、余弦定理の関係を考察することができる。 ・様々な平面図形に三角比の考え方を応用し問題を解くことができる。 ・空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察をすることができる。	・日常の事象や社会の事象などに三角比や正弦定理、余弦定理を活用しようとする。 ・三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 ・正弦定理、余弦定理の図形的意味を考察し、それぞれの定理を導こうとする。 ・三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。また、様々な三角形の面積の公式があることに興味・関心をもち、調べたりまとめたりしようとする。	9月 11月 1月 2学期 中間考査・ 期末考査
第5章 データの分析 第1節 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間の関係 6 仮説検定の考え方	データの散らばりや傾向を数値化したし、適切な統計量やグラフ、手法などにより分析をしてデータの傾向を読み取ったりできるようにする。 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験結果などを通して判断したり、批判的に考察したりできるようにする。	・平均値や中央値、最頻値、四分位数などの定義や意味を理解し、それらを求めることができる。 ・箱ひげ図を用いてデータの分布を比較することができる。 ・分散、標準偏差の定義と意味を理解し、それらを求めることができる。 ・相関係数の意味を理解し、定義にしたがって求めることができる。 ・仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。	・データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。 ・変数の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができる。 ・複数のデータを、散らばりや変量間の関係に着目し、適切な方法を選択して分析し、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。	・データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。 ・変数の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察しようとする。	1月 12月 2学期 期末考査
発展 式と証明 第1節 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 多項式の割り算 4 分式とその計算 5 恒等式 第2節 等式・不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明	○多項式の乗法・除法及び分式の四則計算について理解できるようにする。 ○数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。	・3次の乗法公式や因数分解の公式を理解し、式の展開や因数分解ができる。 ・多項式の除法や分式の四則計算について理解し、計算をすることができる。	・式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付けて多面的に考察することができる。 ・実数の性質や等式の性質、不等式の性質や相加平均と相乗平均の大小関係などを基に等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。 ・1の3乗根の性質を活用し、種々の式の計算を適切に判断して行うことができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。	・4次以上の展開式がどのようになるかを計算しようとする。 ・パスカルの三角形と二項定理の係数との関係について考察しようとする。 ・二項定理をもとに $(a+b+c)^n$ の展開式における $a^p b^q c^r$ の項の係数を考察しようとする。 ・分式の四則計算について、分数の四則計算と関連付けて考えようとしている。 ・多項式を1次式で割る計算において、組立除法の一つの方法として活用しようとしている。	12月 3月 学年 末考査

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	数学	履修学年	1	教科書(出版社)	改訂版 高等学校 数学A(数研出版)
科目	数学A	必修・選択	必修	副教材等	改訂版 教科書併用 4プロセス 数学I+A(数研出版) 改訂版 チャート式 基礎からの数学I+A(数研出版) 短期完成 整数の性質ノート(数研出版)
単位数	2				

1 学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考察する資質・能力を育成することを目指す。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理、法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現、処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断する態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価、改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、不確実な事象を数理的にとらえることの有用性を認識し、それを積極的に活用する。	・和集合や補集合について理解し、式やベン図を活用してその要素の個数を求めることができる。 ・確率の基本的性質を理解し、和事象や余事象の確率を求めることができる。 ・順列、円順列、重複順列の公式を理解し、活用することができる。	・自然数の正の約数の個数や、 $n!$ に含まれる特定の素因数の個数を数える方法を考察することができる。 ・集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。 ・条件が付く順列や円順列などを見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。	・集合を考えることで日常的な事柄などを集合の要素の個数として数学的に数えよとする。	4月～5月・中間考查
第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 4 組合せ 第2節 確率 5 事象と確率 6 確率の基本的性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 9 期待値	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、不確実な事象を数理的にとらえることの有用性を認識し、それを積極的に活用する。	・組合せの公式を理解し、活用することができる。 ・確率の基本的性質を理解し、和事象や余事象の確率を求めることができる。 ・独立試行や反復試行の確率、条件付き確率を公式や定理を用いて求めることができる。 ・期待値の定義を理解し、求めることができる。	・条件が付く組合せなどを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ・集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。 ・独立な試行を、具体例から直観的に考えることができる。 ・反復試行の確率の公式の成り立ちを考察することができる。 ・既習の確率と条件付き確率の違いを、図や表などを用いて考察することができる。	・加法定理などを利用して、複雑な事象の確率を意図的に求めよとする。 ・条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。 ・日常の事象における不確実な事柄について判断する際に、期待値を用いて比較し、考察しようとする。	5月～7月・期末考查
第2章 図形の性質 第1節 平面図形 1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理 4 円に内接する四角形 5 2つと直線 6 2つの円 7 作図	三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、様々な図形の見方ができるようにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理することができるようにする。	・定理を適切に利用して、線分の比の長さを求めることができる。 ・三角形の内心、外心、重心の定義、性質を理解している。 ・三角形の存在条件や、辺と角の大小関係について理解している。 ・チェバ、メネラウスの定理を理解し、図形の問題に活用することができる。 ・円周角の定理及びその逆を理解し、図形の問題に活用することができる。 ・円の接線の性質や方べきの定理を理解し、線分の長さを求めることができる。 ・2つの円の半径と中心間の距離の関係と共有点の個数及び共通接線の本数との結び付きを理解している。	・図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察することができる。 ・チェバ、メネラウスの定理について、論理的に考察し、証明することができる。 ・2つの円を動的に捉え、それらの位置関係を考察することができる。 ・平行線と線分の比の性質を b/a や ab の長さをもつ線分の作図に活用する方法を考察することができる。	・線分を内分・外分する点や、三角形の角の2等分線と比について調べよとする態度がある。 ・三角形の外心、内心、重心に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。 ・チェバの定理やメネラウスの定理に興味を示し、積極的に考察しようとする。 ・三角形の相似を利用した方べきの定理の導入に興味・関心をもつ。	9月～10月・中間考查
第2章 図形の性質 第2節 空間図形 8 直線と平面 9 空間図形と多面体 第3章 数学と人間の活動 1 約数と倍数 2 素数と素因数分解 3 最大公約数・最小公倍数 4 整数の割り算 5 ユークリッドの互除法	三角形や円などの基本的な図形の性質についての理解を深め、様々な図形の見方ができるようにするとともに、図形の性質を論理的に考察し処理することができるようにする。 さまざまな人間の活動の中から、自然数や整数に関する事象について、数学の内容の理解を深めるとともに考察できるようにする。	・空間における2直線や平面の位置関係やなす角を理解している。 ・正多面体の特徴を理解している。また、オイラーの多面体定理を活用して、面、頂点、辺の数を求めることができる。 ・自然数の正の約数やその個数を求めるのに、素因数分解を利用できることを理解している。 ・互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。	・空間における直線や平面の位置関係を考察することができる。 ・具体的な事象を数的に捉え、約数の個数の考えを用いて仕組みを考察することができる。 ・身近な事象を数的に捉え、最大公約数、最小公倍数との関係について考察することができる。 ・割り算の余りによって整数が分類できることを、具体的な事象や問題解決に活用できる。	・空間における図形の位置関係について、積極的に考えてみようとする。 ・数学史に興味・関心をもち、素数と素因数分解について学ぼうとする態度がある。 ・互除法によって最大公約数が求められることに興味・関心をもつ。	10月～12月・期末考查
第3章 数学と人間の活動 6 1次不定方程式 7 記数法 8 座標の考え方 9 ゲーム・パズルの中の数学 発展学習「数列」 第1節 等差数列と等比数列 1 数列と一般項 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和	さまざまな人間の活動の中から、自然数や整数に関する事象について、数学の内容の理解を深めるとともに考察できるようにする。 数列やその一般項の表し方について理解する。また、基本的な数列として等差数列と等比数列を理解し、それらの和を求められるようにする。また、これらの数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	・1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。 ・等差数列、等比数列の項を書き並べて隣接する項の関係が考察できる。 ・等差数列、等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 ・地上や空間における特定の地点を、座標で表現できる。 ・ゲームやパズルのルールについて理解している。 ・等差数列、等比数列の公差、一般項などを理解している。 ・等差数列、等比数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。	・現代の記数法を古代の記数法と比較し、特徴を説明することができる。 ・等差数列、等比数列の項を書き並べて隣接する項の関係が考察できる。 ・等差数列、等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。	・コンピュータなどの身近なものに n 進法の考え方が活用されていることに興味・関心をもつ。 ・数学史に興味・関心をもち、素数と素因数分解について学ぼうとする態度がある。 ・ゲームで勝つ方法やパズルの仕組みなどを、論理的に考察しようとする。 ・数の並び方に興味をもち、その規則性を発見しようとする意欲がある。 ・等差数列、等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、等差数列の和の公式を導こうとする意欲がある。	1月～3月・学年末考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	理科	履修学年	1	教科書(出版社)	版化学基礎 改訂版(啓林館)
科目	化学基礎	必修	必修	副教材等	セミナー化学基礎・化学(第一学習社) 新課程フォローアップドリル化学基礎(数研出版) 新訂版リビートノート化学(浜島書店)
単位数	2	選択			

1 学習の到達目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	物質とその変化から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
物質の構成 1.純物質と混合物 2.物質とその成分 3.物質の三態と熱運動	物質が純物質と混合物に分類されることを理解する。混合物から純物質を得る分離・精製する方法を理解し、実験を通してその操作法を体得する。 元素が元素記号で表されることを理解する。物質が単体や化合物に分けられ、さらに単体には性質が異なる同素体があることも理解する。成分元素の検出方法も学ぶ。 物質に固体・液体・気体の3つの状態があることを確認し、それぞれの特徴や分子の熱運動のようすが異なっていることを理解する。あわせて、相互の変化には熱の出入りが伴うことを理解する。	・混合物を分離する操作法をあげることができる。 ・C、O、P、Sの同素体をあげることができる。また、代表的な成分元素について検出法を理解することができる。 ・物質の三態について、熱運動のようすを踏まえて説明することができる。	・純物質と混合物の違いを説明できる。 ・原子間を単体と化合物に分類することができる。また、単体と化合物の違いについて説明できる。 ・物質を加熱したり冷却したりしたときの温度変化のグラフを理解できる。	・身のまわりの物質が純物質と混合物に分類されることに興味をもつ。 ・元素の概念に興味をもつ。 ・日常生活の中の物質の状態変化について興味をもつ。	4月15日・中間考查
物質の構成粒子 1.原子とその構造 2.イオン 3.周期表	原子の構造と同位体が存在することを理解する。 原子の電子配置と価電子の意味を理解する。 イオンが貴ガスと同じ電子配置をとり安定化することを理解する。 原子のイオン化エネルギーと電子親和力を理解する。 周期律と周期表の特徴を理解する。価電子の周期的変化に注目する。イオン化エネルギーの周期的変化にも留意する。 周期表上での元素の分類について、典型元素と遷移元素の特徴、金属元素と非金属元素の特徴、同族元素の名称と特徴について学ぶ。	・原子の構成粒子の種類、およびその個数・電荷・質量の関係について理解している。 ・半原子イオンの電子配置を示すことができる。 ・周期表について周期律を理解する。	・原子についてどのような粒子から構成されているかを説明することができる。 ・イオンの電子配置を希ガスの電子配置と関連付けて説明ができる。 ・イオンとイオン化エネルギーまたは電子親和力と関連付けて説明できる。 ・周期表中の周期律を見いだせる。	・原子がいくつかの粒子から構成されていることに気づく。 ・原子・イオンの違いについて興味をもつ。 ・元素の典型・遷移、金属・非金属、陽性・陰性、および同族表を理解している。	4月15日・中間考查
粒子の結合 1.イオン結合とイオン結晶 2.共有結合と分子 3.配位結合 4.分子間にはたらく力 5.高分子化合物 6.共有結合の結晶 7.金属結合と金属結晶	イオン同士が結合する力を学ぶ。イオンからなる物質の構造や性質、物質の性質を理解する。 共有結合からなる物質を分子式、電子式で表現できる。 配位結合について学び、錯イオンについても理解する。 分子間力の強さの差により分子の集まりやすさや融点や沸点の差が生じ、分子間力によって形成される分子結晶の性質や分子結晶からなる代表的な物質について学ぶ。 高分子化合物について学ぶ。 結晶の構造について学ぶ。 結晶の原子が共有結合により結合した物質である共有結合の結晶の性質と、代表的な物質について学ぶ。 金属元素が原子どうしがイオン結合や共有結合と異なるしくみで結合することを理解し、具体的に金属が身のまわりでどのように利用されているかを学ぶ。	・イオン結晶の名称と組成式を表す方法を理解している。また、イオンからなる物質の特徴を示すことができる。 ・共有結合を理解し、さまざまな分子を電子式と構造式で表すことができる。 ・配位結合が含まれるイオンについて理解している。 ・高分子化合物の成り立ちや構造を理解している。	・イオン結晶の性質を説明できる。 ・イオン間の共有結合を考えると分子の構造を予想できる。 ・塩化アンモニウム結晶にどのような結合があるかを説明できる。 ・付加重合や縮合重合のしくみについて説明できる。 ・ダイヤモンドと黒鉛の性質の違いを構造から説明できる。 ・金属特有の性質が自由電子によるものであることに気づき、金属結合および金属結晶の性質について説明できる。	・身のまわりにあるイオン結晶の物質に興味をもつ。 ・身のまわりにある分子からなる物質の成り立ちについて興味をもつ。 ・通常の共有結合とはしくみの異なる配位結合について興味をもつ。 ・原子がともかくつながつた分子である高分子化合物に興味をもつ。 ・共有結合の結晶にどのような物質があるかに興味をもつ。 ・金属特有の性質に興味をもつ。	6月17日・期末考查
物質と化学反応式 1.原子量・分子量・式量 2.物質質量	異なる元素の原子どうしの質量が比較でき、それにより分子量や式量の定義を学ぶ。 ある一定の量を持つ単位として扱う。物質質量の概念を学ぶ。物質質量の数値的な扱い方を体得する。気体は物質質量と体積も関係があることを理解する。	・原子量・分子量・式量の定義を理解している。 ・物質質量の定義を理解している。	・原子量の天然存在比から原子量を導くことができる。 ・物質質量の計算ができる。	・同じ原子でも異なる質量があることに興味をもつ。 ・物質質量の概念について興味をもつ。	6月17日・期末考查
物質と化学反応式 3.溶液の濃度 4.化学反応式と物質質量	質量パーセント濃度やモル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。 固体の溶解度の表し方と溶解度曲線について理解し、溶解量や再結晶における析出量の計算方法を身に付ける。 化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことを学び、化学反応式が表す量的関係を把握できるようにする。 また、化学の基礎法則について、原子説の発見までの法則と分子説発見までの法則という流れから理解する。	・濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。 ・濃度反応における、物質質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。	・濃度パーセント濃度とモル濃度の計算ができる。また、濃度の換算ができる。 ・濃度反応式を表すことができる。また、化学反応式の係数から量的関係を計算して求めることができる。	・濃度の表し方について興味をもつ。 ・濃度反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。	9月11日・中間考查
酸と塩基の反応 1.酸・塩基 2.水素イオン濃度とpH 3.中和反応と塩 4.中和滴定	酸や塩基の定義を学び、水素イオンが関与することを理解する。 酸や塩基の強弱、電離度による強弱の分類法を理解する。 水の一部が電離していることや、酸性や塩基性の強さをpHで表せることを理解する。 酸と塩基が中和するときには水が生成することを学ぶ。また、塩の生成と分類の方法。塩の水溶液の性質及び弱酸・弱塩基の遊離、揮発性の酸の遊離について理解する。 中和反応における量的関係、および酸・塩基の強弱との関係を理解する。また、滴定条件により酸や塩基の濃度を求められることを理解する。滴定曲線と指示薬の関係も理解する。	・酸・塩基の定義を理解している。また、強酸や電離度などの考え方が存在することを理解している。 ・酸の表し方を理解している。 ・酸と塩基の化学反応式で表すことができる。また、塩の分類について理解している。 ・既知の酸や塩基の濃度を中和滴定により測定することができる。また、中和滴定で使用する器具を正しく扱うことができる。	・ブレンステッドの定義とブレンステッドローリーの定義から酸と塩基を見きわめられる。 ・酸のイオン濃度からpHを求めることができる。 ・酸の水溶液の酸性・中性・塩基性を判断し、説明することができる。 ・酸と塩基の濃度を式で表すことができる。また、滴定曲線におけるpHの変化、中点、使用できる指示薬について理解している。	・酸とは何か、塩基とは何かに興味をもつ。 ・酸の一部が電離していることに興味をもつ。 ・酸と塩基が本質的にH ⁺ とOH ⁻ の反応であることに気づく。 ・酸・塩基の濃度が中和の量的関係において重要であることに気づく。	10月11日・期末考查
酸化還元反応 1.酸化と還元 2.酸化剤と還元剤 3.金属の酸化還元反応 4.酸化還元反応の利用	酸素、水素や電子の授受による酸化還元反応の定義を理解する。 酸化数の変化から酸化還元反応の区別ができるようになる。 酸化剤と還元剤のはたらきと、化学変化を化学反応式で表せるようになる。 酸化還元反応の量的関係も理解する。 金属のイオン化傾向が金属の種類によって異なることを理解する。金属のイオン化傾向と金属単体の化学的性質が関係していることを学ぶ。 電解質水溶液と金属を利用することで電池ができることを理解する。 金属を炭石から得る製錬の手法に	・酸化還元反応の半反応式で表すことができる。 ・酸化剤と還元剤の半反応式から化学反応式を導くことができる。 ・酸化還元反応の量的関係を式で表すことができる。 ・酸化還元反応の半反応式から化学反応式を導くことができる。 ・酸化還元反応の量的関係を式で表すことができる。 ・酸化還元反応の半反応式から化学反応式を導くことができる。	・酸化還元反応を区別することができる。 ・酸化還元反応における酸化剤と還元剤のはたらきを電子の授受に着目して説明できる。 ・酸化還元反応の量的関係を式で表すことができる。 ・酸化還元反応の半反応式から化学反応式を導くことができる。	・酸素の授受以外にも酸化還元反応の定義があることに興味をもつ。 ・酸化還元反応も酸化剤と還元剤の半反応式からつくられることに興味をもつ。 ・酸化還元反応について興味をもつ。	1月13日・学年末考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	理科	履修学年	1	教科書(出版社)	生物基礎 新訂版 (美教出版)
科目	生物基礎	必修・選択	必修	副教材等	スクエア最新図説生物 セミナー生物基礎
単位数	2				

1 学習の到達目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見直しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成する。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な基本的な技能を身につける。	生物や生物現象に関する資料の分析や観察、実験などを通じて、根拠に基づいて思考する力や科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
1章 生物の特徴 1節 生物の多様性と共通性 1 多様性・共通性とその由来 2 細胞 2節 生物とエネルギー 1 生命活動とエネルギーの獲得 2 酵素と代謝 3 光合成と呼吸	さまざまな生物の比較を通じて、生物は多様でありながら共通性を持っていることを理解する。生物の共通性が生物の起源を共有することを関連付けて理解する。 生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解する。光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解する。	生物の共通性を理解している。 真核細胞と原核細胞の共通点を理解している。 動物細胞・植物細胞・原核細胞の違いを理解している。 酵素の働きを理解している。 光合成の過程の概要を理解している。 呼吸の過程の概要を理解している。 呼吸や光合成とATPの関係を理解している。 顕微鏡を正しく使用できる。	細胞の観察を通じて、細胞の共通点を見出せる。 生物が共通性をもつ由来を説明できる。 生命活動にエネルギーが必要な理由を説明できる。 資料や実験から酵素の性質を見出すことができる。 光合成や呼吸におけるATPの役割を説明できる。	実験や観察を主体的に進めようとしている。 生物が共通性をもつ理由を考えようとしている。 生命活動とエネルギーの関係を考察しようとする。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	4月 5月 中間 考查
2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 1 遺伝子の本体 2 DNAの構造 3 DNAの複製と分配 2節 遺伝情報とタンパク質の合成 1 遺伝子とタンパク質 2 タンパク質の合成 3 遺伝子の発現 4 ゲノムと遺伝子	DNAの構造に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴を理解する。塩基の相補性とDNAの複製を関連付けて理解する。 遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を理解する。 遺伝子とゲノムの関係を理解する。	DNAの構造の特徴を理解している。 DNAの複製のしくみを理解している。 DNAの分配の過程を理解している。 タンパク質と形質との関係を理解している。 遺伝子とタンパク質の関係を理解している。 タンパク質が合成される過程を理解している。 ゲノムと遺伝子の関係を理解している。	DNA模型を製作しその特徴を説明できる。 DNA複製を塩基の相補性に基づいて説明できる。 資料から塩基とアミノ酸の関係を推論できる。 遺伝子の発現と細胞の分化の関係を説明できる。	実験や観察を主体的に進めようとしている。 資料に基づきDNA複製のしくみを推論しようとする。 塩基配列とアミノ酸配列の関係を推論しようとする。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	5月 7月 期末 考查
3章 ヒトのからだの調節 1節 体内環境 1 体内環境と恒常性 2 体液とその働き 3 体液の調節 2節 体内環境の維持のしくみ 1 情報の伝達 2 自律神経系による情報伝達と調節	体内環境やその調節に関わる実験や資料に基づいて、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを理解する。 体内環境の維持のしくみに関する資料に基づいて、体内環境の維持と自律神経系との関係を理解する。	体液の構成とその働きについて理解している。 心臓の構造と働きを理解している。 血液凝固のしくみを理解している。 肝臓と腎臓の構造と働きを理解している。 自律神経系の働きを理解している。	資料に基づき体内環境の恒常性を見出す。 グラフからヘモグロビンの働きを説明できる。 実験や資料から体内環境維持のしくみを考察できる。	恒常性が保たれるしくみを考察しようとしている。 実験や観察を主体的に進めようとしている。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	9月 10月 中間 考查
3 内分泌系による情報伝達と調節 4 内分泌系と自律神経系による調節 3節 免疫 1 生体防御と免疫 2 自然免疫のしくみ 3 獲得免疫のしくみ 4 免疫と疾患	体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を理解する。とくに血糖量調節を主題に取り上げ、内分泌系と自律神経系との協調について理解する。 免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを理解する。身近な疾患を例として、免疫と医療との関連を理解する。	内分泌系とホルモンの働きを理解している。 血糖量調節のしくみについて理解している。 自然免疫とそれにかかわる血球を理解している。 獲得免疫とそれにかかわる血球を理解している。 アレルギーや予防接種について理解している。	資料に基づき糖尿病がおきるしくみを考察できる。 資料に基づき白血球の役割について説明できる。 自然免疫と獲得免疫の関係について説明できる。 ワクチンの働きと予防接種の重要性を説明できる。	免疫の働きについて考察しようとしている。 実験や観察を主体的に進めようとしている。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	10月 12月 期末 考查
4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移 1 生態系とその成立 2 植生とその変化 3 遷移のしくみ 2節 植生とバイオーム 1 世界のバイオームとその分布 2 日本のバイオームとその分布 3節 生態系と生物の多様性 1 生物の多様性 2 生物同士のつながり 4節 生態系のバランスと保全 1 生態系のバランス 2 人間生活による環境への影響 3 生物多様性への影響と生態系の保全	植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移が光環境の変化や土壌の発達と関連しておきることを理解する。 世界や日本には各地の気温や降水量と関連して多様なバイオームが成立していることを理解する。 生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解する。それとともに、生態系の保全の重要性を認識する。	生態系を構成する要素を理解している。 植生の多様性について理解している。 植生の遷移とそのしくみを理解している。 陽生植物と陰生植物の違いを理解している。 世界のバイオームについて理解している。 バイオームの水平分布と垂直分布を理解している。 生態系内の生物同士の関係を理解している。 人間活動の環境への影響を理解している。 生物多様性を維持することの重要性を理解している。	資料に基づき遷移と環境変化の関係を説明できる。 光条件や土壌と植生の関係を考察できる。 バイオームと気温や降水量との関係を考察できる。 日本のバイオームの分布と環境の関係を説明できる。 生態系における種多様性の重要性を説明できる。 生態系のバランスが保たれるしくみを考察できる。 生態系を保全するために何が重要かを説明できる。	バイオームと環境要因との関係を考察しようとする。 人間活動の生態系への影響を考察しようとする。 生態系の保全のために自分ができることについて、自ら考え行動しようとする。 実験や観察を主体的に進めようとしている。 授業内容や思考内容を記録し整理する。	1月 3月 学年 末 考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	理科	履修学年	1	教科書(出版社)	物理基礎 (数研出版)
科目	物理基礎	必修・選択	必修	副教材等	リードα 物理基礎 (数研出版)
単位数	2				

1 学習の到達目標

日常生活との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付ける。 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付ける。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
物体の運動と様々なエネルギーについて理解する力 科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能	情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法	物体の運動と様々なエネルギーに対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
運動の表し方	<ul style="list-style-type: none"> 運動の表し方…物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解すること。 直線運動の加速度…速度が変化する物体の直線運動に関する実験・観察を行い、速度と時間との関係を見だして理解するとともに、物体が直線運動する場合の加速度を理解すること。 	<p>物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解している。</p> <p>速度が変化する物体の直線運動に関する実験・観察を行い、速度と時間との関係を見だして理解するとともに、物体が直線運動する場合の加速度を理解している。</p>	<p>物体の運動とエネルギーについて、観察、実験などを通して探究し、運動の表し方における規則性や関係性を見だして表現している。</p>	<p>物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。</p>	4月～5月・中間考查
物体の落下運動 様々な力とその働き	<ul style="list-style-type: none"> 物体の落下運動…物体が落下する際の運動の特徴について理解すること。 様々な力…物体に様々な力が働くことを理解すること。 力のつり合い…物体に働く力のつり合いを理解すること。 	<p>物体が落下する際の運動の特徴及び物体に働く力と運動との関係について理解している。</p> <p>物体に様々な力が働くことを理解している。(重力、垂直硬直、張力、摩擦力、弾性力、圧力及び浮力) 物体に働く力のつり合いを理解している。</p>	<p>物体の運動とエネルギーについて、観察、実験などを通して探究し、運動の表し方、様々な力とその働きにおける規則性や関係性を見だして表現している。</p>	<p>物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。</p>	5月～7月・期末考查
様々な力とその働き	<ul style="list-style-type: none"> 運動の法則…物体に一定の力を加え続けたときの運動に関する実験などを行い、物体の質量、物体に働く力、物体に生じる加速度の関係を見だして理解するとともに、運動の三法則を理解すること。(垂直抗力、静止摩擦力、動摩擦力、弾性力、浮力(圧力)、重力) 	<p>物体に一定の力を加え続けたときの運動に関する実験などを行い、物体の質量、物体に働く力、物体に生じる加速度の関係を見だして理解するとともに、運動の三法則を理解している。</p>	<p>物体の運動とエネルギーについて、観察、実験などを通して探究し、様々な力とその働きにおける規則性や関係性を見だして表現している。</p>	<p>物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。</p>	9月～10月・中間考查
仕事と力学的エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 運動エネルギーと位置エネルギー…運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解すること。 力学的エネルギーの保存…力学的エネルギーに関する実験などを行い、力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解すること。 	<p>運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解している。</p> <p>力学的エネルギーに関する実験などを行い、力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解している。</p>	<p>物体の運動とエネルギーについて、観察、実験などを通して探究し、力学的エネルギーにおける規則性や関係性を見だして表現している。</p>	<p>物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。</p>	10月～12月・期末考查
熱とエネルギー 物質と電気抵抗	<ul style="list-style-type: none"> 熱と温度…熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解すること。 熱の利用…熱に関する実験などを行い、熱の移動及び熱と仕事の変換について理解すること。 物質と電気抵抗…電気抵抗に関する実験などを行い、同じ物質からなる導体でも長さや断面積によって電気抵抗が異なることを見だして理解すること。また、物質によって抵抗率が異なることを理解すること。 	<p>熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解している。</p> <p>熱の移動及び熱と仕事の変換について理解している。</p> <p>同じ物質からなる導体でも長さや断面積によって電気抵抗が異なることを見だして理解すること。また、物質によって抵抗率が異なることを理解している。</p>	<p>様々な物理現象とエネルギーの利用について、観察、実験などを通して探究し、熱、電気における規則性や関係性を見だして表現している。</p>	<p>物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。</p>	1月～3月・学年末考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	保健体育	履修学年	1	教科書(出版社)	新高等保健体育改訂版(大修館)
科目	体育	必修・選択	必修	副教材等	なし
単位数	3				

1 学習の到達目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、一人一人の違いを大切にしようとしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考査
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
卓球	<p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。</p> <p>(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>・練習やゲーム中の技能を観察したり分析したりするには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・タイミングを合わせてボールを捉えることができる。</p> <p>・ねらった方向にボールを打ち返すことができる。</p>	<p>・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに球技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。</p> <p>・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</p>	<p>・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。</p>	通年
バドミントン	<p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。</p> <p>インターネットでは、役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。</p> <p>(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すことができる。</p>	<p>・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。</p> <p>・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</p>	<p>・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。</p>	通年
体づくり運動	<p>(1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を取り組むことができるようにする。</p> <p>ア体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気づき、仲間と自主的に関わり合うことができるようにする。</p> <p>イ 実生活に生かす運動の計画では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むことができるようにする。</p> <p>(2) 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話し合いに貢献しようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>・定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>・運動を安全に行うには、関節への負荷がかかりすぎないようにすることや軽い運動から始めるなど、徐々に筋肉を温めてから行うことについて、言ったり書き出したりしている。</p>	<p>・ねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定している。</p> <p>・体づくり運動の学習成果を踏まえて、実生活で継続しやすい運動例や運動の組合せの例を見付けている。</p>	<p>・体づくり運動の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>・健康・安全を確保している。</p> <p>・一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとしている。</p>	1学期

陸上競技（短距離走・ハードル走）	<p>(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。</p> <p>ア 短距離走では、中間走へのつなぎを滑らかにして速く走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すことができるようにする。</p> <p>イ 円盤投では、円盤に効率よく力を加えられるフォームで力強く投げることができるようにする。</p> <p>(2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>・陸上競技の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・（短距離走）スタートダッシュでは地面を力強くキックして、徐々に上体を起こしていき加速することができる。</p> <p>・（短距離走）後半でスピードが著しく低下しないよう、力みのないリズムカルな動きで走ることができる。</p> <p>・（ハードル走）スタートダッシュから1台目のハードルを勢いよく走り越すことができる。</p> <p>・（ハードル走）遠くから踏み切り、振り上げ脚をまっすぐに振り上げ、ハードルを低く走り越すことができる。</p>	<p>・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。</p> <p>・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。</p>	<p>・陸上競技の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。</p>	1学期
アルティメット	<p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。</p> <p>(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・フライングディスクをコントロールすることができる。</p>	<p>・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</p> <p>・作戦などの話し合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。</p>	<p>・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。</p>	1学期
水泳	<p>(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、効率的に泳ぐことができるようにする。</p> <p>ア クロールでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。</p> <p>イ 平泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすることができるようにする。</p> <p>ウ 背泳ぎでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができるようにする。</p> <p>エ バタフライでは、手と足の動き、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐことができるようにする。</p> <p>オ 複数の泳法で泳ぐこと、又はリレーをすることができるようにする。</p> <p>(2) 泳法などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 水泳に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、水泳の事故防止に関する心得を遵守するなど健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<p>・水泳の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、効率的に泳ぐためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>・泳ぎの速さに応じて、顔を横に向ける大きさを調節して呼吸動作を行うことができる。</p> <p>・肩より前で、両手で逆ハート型を描くように強くかくことができる。</p> <p>・プルのかき終わりに合わせて顔を水面上に出して呼吸を行い、キックの蹴り終わりに合わせてグライドをとり、1回の腕の動き（ストローク）で大きく進むことができる。</p> <p>・水面上の腕は肘を伸ばし、肩を支点にして肩の延長線上に小指側からまっすぐ入水することができる。</p> <p>・腕を前方に伸ばし、手のひらが胸の前を通るようなキーホールを形を描くようにして腰や太ももくらいまで大きくかく動き（ロングアームプル）で進むことができる。</p> <p>・クロール、平泳ぎ、バタフライでは、水中で両足あるいは左右どちらかの足をプールの壁につけた姿勢から、スタートの合図と同時に顔を水中に沈め、抵抗の少ない流線型の姿勢をとって力強く壁を蹴り、各泳法に適した水中における一連の動きから、泳ぎだすことができる。</p> <p>・背泳ぎでは、両手でプールの縁やスターティンググリップをつかんだ姿勢から、スタートの合図と同時に頭を水中に沈めながら力強く壁を蹴り、水中で抵抗の少ない仰向けの姿勢にする一連の動きから、泳ぎだすことができる。</p>	<p>・選択した泳法について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。</p> <p>・選択した泳法に必要な準備運動や自己が取り組む補助運動を選んでいる。</p> <p>・健康や安全を確保するために、体調や環境に応じた適切な練習方法等について振り返っている。</p> <p>・体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに水泳を楽しむための活動の方法やその修正の仕方を見付けている。</p> <p>・水泳の学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を継続して楽しむための関わり方を見付けている。</p>	<p>・水泳の学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <p>・一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。</p> <p>・水泳の事故防止の心得を遵守するなど健康・安全を確保している。</p>	1・2学期

バスケットボール	<p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。</p> <p>(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・ゴールの枠内にシュートをコントロールすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ・作戦などの話合いの場面で、合意形成するための関わり方を見付け、仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。 	2 学期
ソフトボール	<p>(1) 次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。</p> <p>ウベースボール型では、安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができるようにする。</p> <p>(2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の各型の各種目において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・戦術や作戦に応じて、技能をゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて、学習した具体例を挙げている。 ・ねらった方向へステップを踏みながら、一連の動きでボールを投げるができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。 ・自己や仲間の技術的な課題やチームの作戦・戦術についての課題や課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・球技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。 	2 学期
体育理論	<p>(1) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。</p> <p>(2) 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。</p> <p>(3) 豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解する。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解する。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組む。 ・豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に主体的に取り組む。 	2 ・ 3 学期
陸上競技（長距離走）	<p>(1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、各種目特有の技能を身に付けることができるようにする。</p> <p>ア 長距離走では、自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。</p> <p>(2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保することができるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技の各種目で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ・リズムカカルに腕を振り、力みのないフォームで軽快に走ることができる。 ・呼吸を楽にしたり、走りのリズムを作ったりする呼吸法を取り入れて走ることができる。 ・自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守り競争したり勝敗を受け入れたりする場面で、よりよいマナーや行為について、自己の活動を振り返っている。 ・選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技の学習に自主的に取り組もうとしている。 ・勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとしている。 	2 ・ 3 学期

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	保健体育	履修学年	1	教科書(出版社)	新高等保健体育改訂版(大修館)
科目	保健	必修・選択	必修	副教材等	なし
単位数	1				

1 学習の到達目標

<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。</p> <p>図識及び技能図考力・判断力・表現力等図体的に取り組む態度</p>

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
学習内容について、理解したことを言ったり書いたりしている。	学習内容に関する課題を発見し、解決方法などを話し合い、筋道を立てて説明している。	課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
<ul style="list-style-type: none"> 日本における健康課題の変遷 健康の考え方と成り立ち ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり 健康に関する意思決定・行動選択 現代における感染症の問題 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 	<p>「現代社会と健康」について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付ける。</p> <p>(7) 健康の考え方</p> <p>国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。また、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。</p> <p>健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わること。</p> <p>(イ) 現代の感染症とその予防</p> <p>感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 健康水準の向上、疾病構造の変化に伴い、個人や集団の健康についての考え方も変化してきていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 免疫、遺伝、生活行動などの主体要因と、自然、経済、文化、保健・医療サービスなどの環境要因が互いに影響し合いながら健康の成立に関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 我が国の死亡率、受療率、平均寿命、健康寿命など各種の指標や疾病構造の変化を通して国民の健康課題について、理解したことを言ったり書いたりしている。 健康水準、及び疾病構造の変化には、科学技術の発達、及び生活様式や労働形態を含む社会の状況が関わっていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づき、適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 適切な意思決定や行動選択には、個人の知識、価値観、心理状態、及び人間関係などを含む社会環境が関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 健康を保持増進するための環境には、自然環境、及び政策や制度、地域活動などの様々な社会環境があることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 感染症は、時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られること、その際、交通網の発達により短時間で広がったりやすくなっていること、また、新たな病原体の出現、感染症に対する社会の意識の変化等によって、腸管出血性大腸菌(O157等)感染症、結核などの新興感染症や再興感染症の発生や流行が見られることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。 感染症のリスクを軽減し予防するには、衛生的な環境の整備や検査、正しい情報の発信、予防接種の普及など社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取組が必要であること、エイズ及び性感染症についても、その原因、及び予防のための個人の行動選択や社会の対策について、理解したことを言ったり書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康の考え方について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会の課題を発見している。 国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理している。 健康の考え方について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 現代の感染症とその予防について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 感染症の発生や流行には時代や地域によって違いがみられることについて、事例を通して整理し、感染のリスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用している。 現代の感染症とその予防について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康の考え方について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 	1 学期・ 期末 考查

<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の予防と回復 身体活動・運動と健康 食事と健康 休養・睡眠と健康 がんの予防と回復 喫煙と健康 飲酒と健康 薬物乱用と健康 精神疾患の特徴 精神疾患への対応 	<p>「現代社会と健康」について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付ける。</p> <p>(9) 生活習慣病などの予防と回復</p> <p>健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること。</p> <p>(1) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康</p> <p>喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらへの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。</p> <p>(3) 精神疾患の予防と回復</p> <p>精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること。また、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であること。</p>	<p>がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧症、脂質異常症、糖尿病などを適宜取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた健康的な生活を続けることが必要であること。定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・がんは、肺がん、大腸がん、胃がんなど様々な種類があり、生活習慣のみならず細菌やウイルスの感染などの原因もあることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり心身の健康を損ねること、喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・コカイン、MDMAなどの麻薬、覚醒剤、大麻、など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して深刻な影響を及ぼすことから、決して行ってはならないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・うつ病、統合失調症、不安症、摂食障害などは、誰もが罹患しうることで、若年で発症する疾患が多いこと、適切な対応により回復し生活の質の向上が可能であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・精神疾患の予防と回復には、身体と健康と同じく、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、調和のとれた生活を実践すること、早期に心身の不調に気付くこと、心身に起こった反応については体ほぐしの運動などのリラクゼーションの方法でストレスを緩和することなどが重要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・心身の不調時には、不安、抑うつ、焦燥、不眠などの精神活動の変化が、通常時より強く、持続的に生じること、心身の不調の早期発見と治療や支援の早期の開始によって回復可能性が高まることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・人々が精神疾患について正しく理解するとともに、専門家への相談や早期の治療などを受けやすい社会環境を整えることが重要であること、偏見や差別の対象ではないことについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 生活習慣病などの予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価している。 喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 精神疾患の予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理している。 精神疾患の予防と回復について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 喫煙、飲酒、薬物乱用について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 精神疾患の予防とその回復について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。
<ul style="list-style-type: none"> 事故の現状と発生要因 交通事故防止の取り組み 安全な社会の形成 応急手当の意義と救急医療体制 	<p>「安全な社会生活」について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付ける。</p> <p>(7) 安全な社会づくり</p> <p>安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること。</p> <p>また、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること。交通事故には補償をはじめとした責任が生じること。</p> <p>(4) 応急手当</p> <p>適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること。応急手当には、正しい手順や方法があること。また、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があること。心肺蘇生法などの応急手当を適切に行うこと。</p>	<p>・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していること、事故の発生には、周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・交通事故を防止するには、自他の生命を尊重するとともに、自分自身の心身の状態や周りの環境、車両の特性などを把握すること、及び個人の適切な行動、交通環境の整備が必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・事故を防止したり事故の発生に伴う傷害等を軽減したりすることを旨とする安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・自他の生命や身体を守り、不慮の事故災害に対応できる社会をつくるには、一人一人が適切な連絡・通報や運搬も含む応急手当の手順や方法を身に付けるとともに、自ら進んで行う態度が必要であること。さらに、社会の救急体制の整備を進めること、救急体制を適切に利用することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>・心肺停止状態においては、急速に回復の可能性が失われつつあり、速やかな気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用などが必要であること、及び方法や手順について、実習を通して理解したことを言ったり書いたりし、AEDなどを用いて心肺蘇生法ができる。</p> <p>・日常生活で起こる傷害や、熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを、実習を通して理解し、応急手当ができるようになる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 安全な社会づくりについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に活用している。 交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価している。 安全な社会づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 応急手当について、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。 応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に活用している。 応急手当について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な社会づくりについて、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 応急手当について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	外国語(英語)	履修学年	教科書(出版社)
科目	英語コミュニケーションⅠ	必修 選択	Crossroads English Communication I ワークブック(大修館) チャックで英単語 Advanced 第2版(三省堂)、Cutting Edge Yellow(エミル) Focus on Listening Basic ver.2、Focus on Listening Pre-Standard(エミル) 英語速読×速解テストActiveReader Intermediate(いづな書店)
単位数	4	必修	

1 学習の到達目標

異文化理解や社会課題への関心を深めながら、聞く・読む活動を通して概要や要点を捉え、得た情報を基に自分の考えや気持ちを伝え合う力を育成する。また、調査や比較を通して多様な視点や身に付け、根拠をもって意見を発表・記述する力を養う。さらに、文化交流、環境、福祉、芸術など幅広い題材を通して、他者と協働し主体的に学びに向かう態度を育てる。

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
不定詞や動名詞、完了形、受動態、関係詞、仮定法などの文法や表現の特徴を理解する。また、その知識を基に、対話や発表の聞き取り、文章の読解を通して要点を捉え、自分の考えや気持ちを伝え合い、目的に応じて話したり書いたりする技能を身に付ける。	多様な情報や資料を正確に読み取り・聞き取り、要点を整理したうえで、異文化や社会課題への理解を深め、自分の考えや意見を根拠とともに判断・表現し、他者にわかりやすく伝える力を育んでいる。	資料や情報を主体的に読み取り・聞き取り、理解した内容を整理して要点を把握し、自分の考えや意見を他者に分かりやすく伝えるなど、多様な活動を通して学びを深める態度を身につける。

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
Unit 1 Living Abroad 【異文化理解】 Unit 2 Connecting People Across Cultures 【国際協調】	Unit 1 新しい文化で生活する際の困難や支援の在り方を理解し、体験談の聞き取りやコメントの読解を通して要点を把握する。得た情報を基に助言を伝え合い、チラシ作成や発表、要約を書く活動を通して表現力を養う。 Unit 2 文化の違いをつなぐ役割や相互理解の大切さを考え、実況の聞き取りや記事の読解を通して要点を把握する。得た内容を基に意見を伝え合い、ポスター作成や発表、レポート作成を通して表現力を養う。	不定詞・動名詞・完了形・受動態などの文法や慣用表現の仕組みを理解し、対話や記事、実況、発表、レポートの内容を正確に捉えている。情報や考え、気持ちを即興で整理して伝えられている。理由や根拠を示しながら話したり書いたりして、異文化理解や文化交流に関する内容を助言・提案や客観的事実を交えて分かりやすく伝えられている。	留学や文化交流に関する体験談や記事、インタビューの内容を聞いたり読んだりして概要や要点を捉え、必要な情報を整理できる。理解したことを基に、相手に伝える情報や助言を考え、簡単な語句や文を用いて話したり、質問に答えたりしている。また、チラシやポスター、レポートを作成し、情報や考え、気持ちを順序立ててまとめ、短いプレゼンテーションや文章で分かりやすく伝えられている。	オーストラリアへの留学体験や異文化に関する情報、日本のイベントや海外での文化交流に関する内容を、イラストや記事、フォーラムを活用しながら主体的に聞き取りたり読んだりしようとしている。理解したことを基に、基本的な語句や文を用いて考えや気持ちを伝えたり、質問に答えたりし、チラシやポスター、レポートの作成などを通して情報を整理して分かりやすく発信しようとする態度を示している。	4月～5月・中間考查
Unit 3 Studying Foreign Languages in the Age of AI 【AI・外国語学習】 Unit 4 Problems in the Oceans 【海洋環境】	Unit 3 外国語学習の意義や人間との関わりを理解し、対話の聞き取りや記事の読解を通して要点を把握する。AIの役割を踏まえて意見を伝え合い、立場を明確にした発表や要約を書く活動を通して表現力を養う。 Unit 4 海が抱える問題を理解し、対話の聞き取りやインタビューの読解を通して要点を把握する。得た内容を基に意見を伝え合い、調査結果の発表や意見を含むメール作成を通して表現力を養う。	過去の出来事や原因・理由、助動詞を含む受動態、分詞、関係代名詞、仮定法過去などの文構造や慣用表現の仕組みを理解し、対話や記事、インタビュー、メールなどの内容を正確に捉えている。情報や考え、気持ちを即興で整理して伝えられている。根拠や理由を示しつつ、肯定、否定、可能、不可能、対比、解決策などを交えて分かりやすく話したり書いたりして、異文化理解や海洋環境問題に関する内容を伝えられている。	旅先やAI、海洋環境に関する対話や記事、インタビューの内容を聞いたり読んだりして概要や要点を捉え、必要な情報を整理できる。理解したことを基に、相手に伝える考えや意見をまとめ、基本的な語句や文を用いて話したり、質問に答えたりしている。また、調べた情報や意見を基に、データや解決策を含めて短いプレゼンテーションやメール形式で整理し、分かりやすく伝えられている。	旅先での体験やAIの活用、プラスチックごみや海洋環境に関する情報を、イラストや記事、インタビュー、フォーラムを活用しながら主体的に聞き取りたり読んだりしようとしている。理解した内容を基に、基本的な語句や文を用いて考えや気持ちを伝えたり、質問に答えたりし、データや解決策を整理して短いプレゼンテーションやメール形式で分かりやすく発信しようとする態度を示している。	5月～7月・期末考查
Unit 5 Alex's Lemonade Stand 【ボランティア】 Unit 6 Learning from the Okinawans 【健康・ライフスタイル】	Unit 5 報告や発表、エッセイで用いられる表現や文構造(過去完了形・SVO・原形不定詞・分詞・seem構文など)を理解し、対話や記事、レポート、実況の内容を正確に捉えている。情報や考え、気持ちを即興で整理して伝えられている。根拠や理由を示しつつ、勧誘・提案、注意喚起や助言を交えて分かりやすく話したり書いたりして、ボランティア活動や健康・長寿に関する内容を伝えられている。 Unit 6 長く健康に生きる方法を理解し、発表の聞き取りやレポートの読解を通して要点を把握する。得た内容を基に生活習慣を見直し、意見を伝え合い、発表やエッセイ作成を通して表現力を養う。	報告や発表、エッセイで用いられる表現や文構造(過去完了形・SVO・原形不定詞・分詞・seem構文など)を理解し、対話や記事、レポート、実況の内容を正確に捉えている。情報や考え、気持ちを即興で整理して伝えられている。根拠や理由を示しつつ、勧誘・提案、注意喚起や助言を交えて分かりやすく話したり書いたりして、ボランティア活動や健康・長寿に関する内容を伝えられている。	ボランティア活動やチャリティ、長寿や健康に関する発表や記事の内容を聞いたり読んだりして概要や要点を捉え、必要な情報を整理できる。理解したことを基に、基本的な語句や文を用いて考えや気持ちを整理して伝えたりできる。また、自分の考えや調べた情報を理由や根拠とともに表や文章にまとめ、短いプレゼンテーションやエッセイの形で論理的に整理できる。	ボランティア活動や健康に関する情報を、イラストや表、記事、レポートなどに聞き取りたり読み取りたりしようとしている。理解した内容を基に、基本的な語句や文を用いて考えや意見を、気持ちを伝えたり質問に答えたりし、データや生活習慣を整理して短いプレゼンテーションやチャリティ、エッセイで分かりやすく発信しようとする態度を示している。	9月～10月・中間考查
Unit 7 Dick Bruna and Miffy 【芸術】 Unit 8 Beyond Borders 【教育・探究】	Unit 7 ディック・ブルーナの創作や芸術の影響を理解し、発表の聞き取りや記事の読解を通して要点を把握する。得た内容を基に意見を伝え合い、人物紹介の発表やPOP作成を通して表現力を養う。 Unit 8 アンコール・ワットの教育プログラムや文化協働の意義を理解し、発表の聞き取りや記事の読解で要点を把握する。得た内容を基に意見を伝え合い、ポスター発表や記述活動を通して表現力を養う。	発表や記事で用いられる表現や文構造(完了形受動態・分詞構文・関係代名詞・進行形受動態など)を理解し、芸術家や歴史遺産に関する情報や考え、気持ちを正確に捉えている。情報や意見を即興で整理して伝え、理由や根拠を添えて説明している。また、勧誘・提案、注意喚起の表現を適切に用いて、相手に分かりやすく伝える技能を身に付けている。	ディック・ブルーナやカンボジアの遺跡・アンコール・ワットに関する発表や記事の内容を聞いたり読んだりして、概要や要点を捉え、必要な情報を整理できる。理解したことを基に、基本的な語句や文を用いて、情報や考え、意見、気持ちを論理的に整理しながら詳しく話したり質問に答えたりできる。また、調べた情報や自分の意見を表や文章、ポスターやPOPにまとめ、簡潔かつ分かりやすく伝えられる。	ディック・ブルーナやカンボジアの遺跡に関する情報を、イラスト・年表・写真・地図・表などを活用しながら主体的に聞き取りたり読み取りたりしようとしている。理解した内容を基に、基本的な語句や文を用いて考えや意見を、気持ちを論理的に整理し、多様な表現で詳しく伝えたり質問に答えたりし、ポスターやPOPの作成、プレゼンテーションなどを通して主体的に情報を発信しようとする態度を示している。	10月～12月・期末考查
Unit 9 The Vancouver Asahi: The Road to Acceptance 【差別・偏見】 Unit 10 Paddington Bear and the Refugee Story 【戦争・平和】	Unit 9 バンクーバー朝日の活躍を通して差別や偏見を乗り越える力やスポーツの意義を理解し、対話の聞き取りや記事の読解を通して要点を把握する。得た内容を基に意見を伝え合い、人物調査の発表や手紙作成を通して表現力を養う。 Unit 10 第二次世界大戦中に人々を救った人物を理解し、発表の聞き取りや物語の読解を通して要点を把握する。得た内容を基に意見を伝え合い、人物調査の発表や手紙作成を通して表現力を養う。	百分率や対比、強調構文・仮定法過去完了などの表現や文構造を理解し、スポーツや異文化・歴史的事例に関する情報や考え、気持ちを正確に捉えている。体験や出来事の内容を整理し、理由や根拠を添えて説明したりしている。また、疑問や依頼などの表現を用い、相手に分かりやすく情報を伝えていく技能も身に付けている。	日本人のスポーツの好みやバンクーバー朝日の歴史、くまのパティントン朝日、ホロコーストに関する発表や記事の内容を聞いたり読んだりして、概要や要点、必要な情報を整理できる。理解したことを基に、基本的な語句や文を用いて、考えや気持ち、意見を論理的に注意しながら話したり質問に答えたりできる。また、調べた情報や自分の意見をメールやプレゼンテーションで簡潔かつ分かりやすく伝えることができる。	日本人のスポーツの好みやバンクーバー朝日、ホロコーストやくまのパティントンに関する情報を、グラフ・スライド資料などを活用しながら主体的に聞き取りたり読み取りたりしようとしている。理解した内容を基に、基本的な語句や文を用いて考えや気持ちを整理し、多様な表現で詳しく話したり質問に答えたりし、プレゼンテーションやメール作成などを通して主体的に情報を発信しようとする態度を示している。	1月～3月・学年末考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	外国語(英語)	履修学年	1	教科書(出版社)	CROWN Logic and Expression I (三省堂)
科目	論理・表現 I	必修・選択	必修	副教材等	ブレクスルー(改訂二版)[新装版]英文法27章(美誠社) ブレクスルー(改訂二版)[新装版]英文法27章ワークブック(美誠社) ブレクスルー総合英語(改訂二版)[新装版](美誠社) Stellar 3(啓隆社)
単位数	2				

1 学習の到達目標

<p>基本的な語彙・文法を活用し、「自分らしさ」や将来の夢、食生活、環境問題、観光、科学技術など多様なテーマについて考えを深める。対話・スピーチ・プレゼンテーション・作文を通して論理的に表現し、やり取りや意見交換を重ねながら、自分の考えを適切に伝え、他者の考えを理解する力を養う。</p>
--

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
<p>時制・助動詞・受動態・不定詞・動名詞・分詞・比較・関係詞・仮定法などの文法知識を理解し、基本的な語彙・表現を活用して、対話や作文において自分の考えを適切に伝え合い、質疑応答に対応する技能を身に付けている。</p>	<p>他者の意見を踏まえて自分の考えを多面的に捉え、論理的に構成する力を育成する。また、対話・作文を通して自的や相手に応じて適切に表現し、質問への応答や意見交換を通して考えを深める力を養う。</p>	<p>多様なテーマについて主体的に考え、他者の意見を参考にしながら自分の考えを深めようとする態度を育成する。また、対話や作文において積極的に表現し、質問への応答や意見交換を通して学びを広げようとする態度を養う。</p>

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
Lesson 1 Living Your Own Way Lesson 2 Breakfast: To have or Not to Have	<ul style="list-style-type: none"> ●「自分らしさ」に関する対話文を読んで、人生や生き方についてやり取りをし、人生や生き方についての考えを深める。 ●「将来の夢」に関する自分の意見を書く。 ●「朝食を取ることのメリット」について、対話文やグラフのデータなどを通して、考えを深める。 ●「理想の食事メニュー」について、論理的に考えを構成し、分らなかったことなどについて意見交換する。 	<p>「時制」や「助動詞」の表現を理解し、それらを活用する力を身に付けている。また、「自分らしさ」や「朝食を取ることのメリット」について、やり取りの機能に留意しながら、自分の考えを詳しく伝え合う技能を養っている。さらに、「将来の夢」や「理想の食事メニュー」について、相手を意識した原稿を作成し、発表する技能を身に付けている。</p>	<p>「自分らしさ」や「朝食を取ることのメリット」について、他者の意見を参考にしながら、基本的な語彙や文法を活用して自分の考えを詳しく伝え、質問にも応答している。また、「将来の夢」や「理想の食事メニュー」については、論理展開に留意し、読み手を意識した原稿を作成している。</p>	<p>「自分らしさ」や「将来の夢」、「朝食を取ることのメリット」について主体的に考え、他者の意見を参考にしながら自分の考えを深めようとする態度を育成する。また、対話や作文において積極的に表現し、質問への応答や意見交換を通して学びを広げようとする態度を養う。</p>	4月～5月・中間考查
Lesson 3 Cool Japan Lesson 4 Saving Our Planet	<ul style="list-style-type: none"> ●「外国人観光客に伝えたい日本のよいところ」について、考えを深めることができる。 ●「クールジャパン」を世界に発信するSNS原稿を書くことができる。 ●環境問題を解決するための取り組みについて、考えを深める。 ●環境問題とその解決策について、論理的に考えを構成し、問題とすべきことなどについて意見交換する。 	<p>「受動態」「不定詞」の表現を理解し、それらを活用する力を身に付けている。また、「外国人観光客に伝えたい日本のよいところ」や環境問題について、やり取りの機能に留意しながら、自分の考えを詳しく伝え合う技能を養っている。さらに、「クールジャパン」を発信するSNS原稿や、環境問題に関する文章を作成し、発表する技能を身に付けている。</p>	<p>「外国人観光客に伝えたい日本のよいところ」や環境問題の解決に向けた取り組みについて、他者の意見を参考にしながら、自分の考えを基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝え、質問にも応答している。また、「クールジャパン」を発信するSNS原稿や環境問題に関する原稿について、論理展開に留意し、読み手を意識して作成している。</p>	<p>「外国人観光客に伝えたい日本のよいところ」や環境問題の解決に向けた取り組みについて主体的に考え、他者の意見を参考にしながら、自分の考えを基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝え、質問にも応答しようとしている。また、「クールジャパン」や環境問題に関する原稿について、論理展開に留意し、読み手を意識して主体的に作成している。</p>	5月～7月・期末考查
Lesson 5 Another Life I Might Have Had	<ul style="list-style-type: none"> ●古典を学習することの魅力について考えを深め、基本的な語彙や文法を活用して自分の考えを詳しく伝え合い、やり取りを行う。 ●自分のお薦めの本について論理的に考えを構成し、基本的な語彙や文法を活用してスピーチ原稿を作成する。 	<p>「動名詞/分詞」を用いた表現を理解し、それらを適切に活用する力を身に付けている。また、「古典学習」をどう考えるかについて、やり取りの機能に留意しながら、自分の考えを詳しく伝え合う技能を養っている。さらに、「自分のお薦めの本」について意見をまとめた原稿を作成する技能を身に付けている。</p>	<p>「古典学習」をどう考えるかについて、他者の意見を参考にしながら、自分の考えを基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝え、質問にも応答している。また、「自分のお薦めの本」については、論理展開に留意し、読み手を意識した原稿を作成している。</p>	<p>「古典学習」をどう考えるかについて主体的に考え、他者の意見を参考にしながら、基本的な語彙や文法を活用して自分の考えを詳しく伝え、質問にも応答しようとしている。また、「自分のお薦めの本」についても主体的に考え、論理展開に留意し、読み手を意識した原稿を作成している。</p>	9月～10月・中間考查
Lesson 6 Living in the Future Lesson 7 Discovering Japan and the World	<ul style="list-style-type: none"> ●「科学技術の発達」をテーマとする対話文を通して、「科学技術の発展」について、考えを深める。 ●「史上最大の発明品は何か」というテーマについて、論理的に考えを構成し、分らなかったことなどについて意見交換する。 ●「世界遺産」や「観光」をテーマとする文章を通して、都市や観光についての考えを深める。 ●「外国人観光客に薦めたい日本の場所」について、論理的に考えを構成して、記事を書く。 	<p>「比較」や「関係詞」を用いた表現を理解し、それらを活用する力を身に付けている。また、「発明品の発展」や「外国人観光客に薦めたい日本の場所」について、やり取りの機能に留意しながら、自分の考えを詳しく伝え、質疑応答に適切に答える技能を養っている。さらに、「史上最大の発明品」や日本のおすすめの場所について、自分の意見を文章にまとめ、発表・記述する技能を身に付けている。</p>	<p>「身の回りの発明品の今後の発展」や「外国人観光客に薦めたい日本の場所」について、他者の意見を参考にしながら、自分の考えを基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝え、質問にも応答している。また、「史上最大の発明品」や日本のおすすめの場所について、論理展開に留意し、読み手を意識した原稿を作成している。</p>	<p>「身の回りの発明品の今後の発展」や「外国人観光客に薦めたい日本の場所」について主体的に考え、他者の意見を参考にしながら、自分の考えを基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝え、質問にも応答しようとしている。また、「史上最大の発明品」や日本のおすすめの場所について、論理展開に留意し、読み手を意識した原稿を主体的に作成している。</p>	10月～12月・期末考查
Lesson 8 Volunteer Work	<ul style="list-style-type: none"> ●「ボランティア活動の意義」について対話文を通して考えを深め、「ボランティア活動をすべきか否か」について論理的に考えを構成する。 ●基本的な語彙や文法を活用し、自分の考えをやり取りの表現を用いて伝え合うとともに、意見文としてまとめる。 	<p>「仮定法」を用いた表現を理解し、それらを適切に活用する力を身に付けている。また、「高校生はボランティア活動をすべきか」という論題について、やり取りの機能に留意しながら、基本的な語彙や文法を活用して自分の考えを詳しく伝え合い、論理的に主張し合う技能を養っている。</p>	<p>「高校生はボランティア活動をすべきか」という論題について、他者の様々な意見を参考にしながら、自分の考えを基本的な語彙や文法を活用して詳しく伝え、相手の質問にも適切に答えている。やり取りの中で自らの意見を整理し、相手の考えを踏まえて理解を深める姿勢も身に付けている。</p>	<p>「高校生はボランティア活動をすべきか」という論題について主体的に考え、他者の意見を参考にしながら、自分の考えを基本的な語彙や文法を活用して、自分の意見を論理的に整理し、意見文として主体的に表現しようとしている。</p>	1月～3月・学年末考查

令和8年度 年間授業計画(シラバス)

教科	情報	履修学年	1	教科書(出版社)	情報 I ADVANCED(日本文教出版)
科目	情報 I	必修・選択	必修	副教材等	進研ウインステップ情報 I (ラーズ)
単位数	2				

1 学習の到達目標

<p>・情報に関する科学的な見方・考え方を学び、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>・コンピュータや情報通信ネットワークの仕組みや特徴を理解し、基本的な使い方を身に付ける。ソフトウェアや情報サービスを効率的に活用するための方法や工夫を身に付ける。このことにより、様々な情報を適切に収集・処理・発信できるようにすることを目指す。</p> <p>・情報社会における法律やルールを正しく理解し、他者とコミュニケーションをとりながら協同する力や、主体的に問題を解決する力を身に付ける。</p>

2 重点的に育成すべき資質・能力

知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度
<p>・情報と情報技術についての基本的な知識と技能。</p> <p>・デジタル技術の基礎となる情報の表し方、音や画像などの表現方法についての知識。</p> <p>・実習を通して学ぶ各種ソフトウェアについての知識と技能。</p> <p>・情報社会で生きるために必要となる、情報に関する法規・マナー、個人が果たす役割・責任等についての理解。</p>	<p>・情報に関する科学的な見方・考え方を学び、問題の発見・解決の際に必要な情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付ける。</p> <p>・目的に応じて情報機器やインターネットを正しく活用し、情報の収集・処理・発信ができる。</p>	<p>・情報と情報技術を適切に活用することを通して、法規や制度及びマナーを守ろうとする態度や情報モラルを身に付ける。</p> <p>・情報と情報技術を活用し、情報社会における様々な問題に対して主体的に取り組むことができる。</p> <p>・仲間と協力しながら問題の発見・分析・解決に取り組むことができる。</p>

3 実施時期

単元	学習内容・学習のねらい	評価基準			時期・考查
		知識および技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学びに向かう態度	
<p>◇情報社会・情報デザイン・デジタル</p> <p>□オリエンテーション</p> <p>●モデル化とシミュレーション【表計算ソフトウェア】</p> <p>●コミュニケーションと情報メディア</p> <p>●情報デザイン</p> <p>●デジタル情報</p> <p>●デジタル音/音/画像</p> <p>●コンピュータの構成</p> <p>●データの圧縮技術</p> <p>●ネットワークとプロトコル</p> <p>●インターネットの仕組み</p> <p>●Webページの仕組み</p> <p>●電子メールの仕組み</p> <p>【クラウドサービス】</p> <p>【文書作成ソフトウェア】</p> <p>【画像編集ソフトウェア】</p>	<p>・中学校までの知識・技能・経験などの実態調査。</p> <p>・PCの起動/終了/管理方法、文字の入力、文章の作成方法を習得する。各自アカウントとパスワードでPCを管理する。</p> <p>・クラウドサービスの操作を習得する。</p> <p>・コミュニケーション形態やメディア、情報デザインと視覚的な表現の工夫について学ぶ。</p> <p>・アナログ、デジタル、デジタルデータの表現、情報量、ビット、バイト、AD変換、DA変換、数値の表現、2進数で表された数値の計算、HTMLについて学ぶ。</p> <p>・光の三原色、色の三原色、解像度、階調、音や画像のデジタル化、圧縮の種類や圧縮形式、圧縮の仕組みについて学ぶ。</p> <p>・ハードウェアとソフトウェア、OS、CPUについて学ぶ。</p>	<p>・PCからクラウドサービスに各自アカウントでログインし、パスワード変更して管理できる。PCの基本操作や設定、文字入力、文書作成ソフトウェアを使った書類作成などができる。</p> <p>・情報の特徴(残存性、複製性、伝搬性)について意味を理解している。</p> <p>・パスワードの重要性、コミュニケーションとメディア、メディアリテラシーの考え方や情報の信憑性、情報デザイン、Webページの特徴や作成方法、HTMLタグやCSSセレクタの働きについて理解している。</p> <p>・アナログとデジタル、2進数/10進数/16進数の相互変換、文字コードの特徴、2進数の簡単な計算、AND/OR/NOTの基本論理回路、音やデジタル化の仕組みなどを理解している。</p> <p>・表計算ソフトの関数を使って目的の量を計算、モデル化やシミュレーションの手順、などについて理解している。</p>	<p>・コミュニケーションにおける同期/非同期、直接/間接を適切に分類、分かりやすいストーリーボードやスライドを作成、Webサイトの情報構造を考えた適切な設計、意図したデザインにするためのHTMLタグやCSSセレクタを適切に選択、SEO対策について説明、などができる。</p> <p>・アナログデータとデジタルデータの違い、ビット数と表現できる情報の数、AD変換の際の誤差、画像のデジタル化、CPUのクロック周波数、圧縮の仕組み、などについて説明できる。</p> <p>・2進数/10進数/16進数を用いた表現ができる。</p> <p>・クライアントサーバシステムの具体例、ルータの役割、身近なデータベース、ビジュアルデータやオープンデータ、パスワードの重要性、コンピュータウイルス、ファイアウォール等について理解し、説明できる。</p> <p>・Webページ、電子メールについて、データの流れを説明できる。</p> <p>・IPv4やIPv6の表記について理解し、2進/10進/16進数で表現できる。</p> <p>・モデルの分類を身のまわりの具体的な事例で説明することができる。</p> <p>・シミュレーションを行い、その結果から考察することができる。</p>	<p>・電子メール作成における作法を積極的に身に付けようとしている。</p> <p>・情報をわかりやすく伝えるために、自ら改善しようとしている。</p> <p>・自己評価や相互評価を行い、フィードバックを行って改善しようとしている。</p> <p>・Webページの制作に意欲的に取り組んでおり、文字、画像などが適切に表現されている。</p> <p>・音のデジタル化、音質とデータ量の関係を調べる実験、標準化定理の学習、加法混色、解像度や階調を変える実験、ペイント系やドロー系のソフトウェア実習、ハードウェアとソフトウェアの学習、ファイル形式が異なる画像データの学習等に興味・関心をもって取り組んでいる。</p> <p>・パスワードの重要性について関心を持ち自分で管理できている。</p> <p>・pingコマンド、nslookupコマンド、ipconfigコマンドを使った実習に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>・身近なコンピュータシステム、Webページの仕組みやオープンデータをダウンロードして分析する学習に興味・関心を示している。</p> <p>・表計算ソフトウェア等を使った実習に興味・関心を示している。</p>	4月 7月 期末 考查
<p>◇プログラミング</p> <p>●アルゴリズムとプログラミング</p> <p>●配列</p> <p>●関数</p> <p>○探索のプログラム</p> <p>○整列のプログラム</p> <p>【プログラミングソフトウェア】</p> <p>◇総合演習</p> <p>●データの収集と整理</p> <p>【表計算ソフトウェア】</p>	<p>・アルゴリズムとプログラミング、プログラミング言語の分類、プログラムの基本構造、演算子や変数、プログラム作成上の基本ルール、配列、関数、グローバル変数とローカル変数、などについて学ぶ。</p> <p>・これまで学んだことを活かした課題作成に取り組む。</p> <p>・数値データ/文字データ/画像データの整理、表計算ソフトウェアでの関数利用/データの可視化/データの並べ替えや抽出、統計量とその計算方法、時系列分析/回帰分析、モデル化とシミュレーションについて学ぶ。</p>	<p>・アルゴリズムの基本、プログラムの意味、プログラム作成の手順、プログラムにおける変数の役割、プログラム作成上の基本ルール、配列の役割や要素/添字、関数の概念/種類、グローバル変数とローカル変数、探索/整列のプログラムを理解している。</p> <p>・文書作成/表計算/画像・動画編集ソフトウェア、各種クラウドサービスの特徴を理解し、必要に応じて使い分けできる。</p> <p>・表計算ソフトの関数を使って目的の量を計算/グラフ作成機能/昇順、降順に並べ替え/データの抽出/統計量を計算/ヒストグラム作成、データの分析、検定に関する用語の意味、などについて理解している。</p>	<p>・アルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現できる。</p> <p>・各種エラーの違いや、演算子の機能について説明できる。</p> <p>・必要な情報を得るための適切なグラフを選択、おもな基本統計量について説明、身近な数値データを尺度水準で分類し説明、回帰分析や相関係数について説明、クロス集計方法を説明、などができる。</p>	<p>・プログラム実習に意欲的に取り組んでいる。</p> <p>・基本構造のプログラム/探索プログラム/整列プログラムの作成を意欲的に取り組んでいる。</p> <p>・これまで学んだことを活かし、総合演習に積極的に取り組んでいる。</p> <p>・文書作成/表計算/画像・動画編集ソフトウェア、各種クラウドサービスに興味・関心を示し、自ら学びながら活用できている。</p>	9月 12月 期末 考查
<p>◇デジタル・ネットワーク・問題解決</p> <p>●情報システムとデータベース</p> <p>●情報セキュリティ</p> <p>●安全のための情報技術</p> <p>●情報セキュリティ</p> <p>●情報モラル</p> <p>●情報と情報社会</p> <p>●情報に関する法規</p> <p>●個人情報</p> <p>●知的財産権</p> <p>●産業財産権</p> <p>●著作権</p>	<p>・LANとWAN、集中処理と分散処理、サーバ、IPアドレス、DNS、Webページ、電子メール、RDB、パスワード管理、コンピュータウイルス、不正アクセス、フィルタリング、暗号化、などについて学ぶ。</p>	<p>・不正アクセス禁止法や個人情報保護法などの法規、プライバシー権、肖像権、パブリシティ権について理解している。知的財産権の概要について理解し、著作権と伝送者の権利についての法規やルールについて理解している。著作物の利用について理解している。</p> <p>・LANとWAN、集中処理と分散処理の違い、クライアントとサーバの関係、IPv4やIPv6の表記、ルータの役割、データベースやDBMS、不正アクセス行為、共通鍵暗号方式と公開鍵暗号方式の違い、等について理解している。</p>	<p>・個人情報の漏洩の例について説明することができる。著作権と産業財産権における権利の取得の違いを説明できる。保護対象や期間について説明することができる。どのようなパスワードが強力か説明できる。</p>	<p>・情報セキュリティ技術に興味・関心をもって取り組んでいる。特許の事例について興味・関心を持ち、知的財産権の問題に関し、主体的・意欲的に取り組んでいる。特許情報を検索する活動に積極的に取り組んでいる。著作物の利用に関し、著作権を侵害しないように取り組んでいる。</p>	1月 3月 課題 制作